

食品衛生法に基づく暫定規制値 (平成23年3月17日～)

放射性ヨウ素 (混合核種の代表核種: ¹³¹ I)	飲料水、牛乳・乳製品(注)	300Bq/kg
	野菜類(根菜、芋類を除く。)、 魚介類(23年4月5日～)	2000Bq/kg
放射性セシウム	飲料水、牛乳・乳製品	200Bq/kg
	野菜類、穀類、肉・卵・魚・その他	500Bq/kg
ウラン	乳幼児用食品、飲料水、牛乳・ 乳製品	20Bq/kg
	野菜類、穀類、肉・卵・魚・その他	100Bq/kg
プルトニウム及び超ウラ ン元素のアルファ核種 (²³⁸ Pu, ²³⁹ Pu, ²⁴⁰ Pu, ²⁴² Pu, ²⁴¹ Am, ²⁴² Cm, ²⁴³ Cm, ²⁴⁴ Cm放射能濃度の合計)	乳幼児用食品、飲料水、牛乳・ 乳製品	1Bq/kg
	野菜類、穀類、肉・卵・魚・その他	10Bq/kg

(注) 100Bq/kgを超えるものは、乳児用調製粉乳及び直接飲用に供する乳に使用しないよう指導すること
 「野菜類」には、葉菜、果花菜、きのこ、果実、海草、根菜、芋類が含まれる。
 「穀類」には、米、豆類等、可食部が地上部にあつて殻で覆われている食品群が含まれる。
 「肉・卵・魚・その他」には、茶、介類が含まれる。

新たな規制値設定のための基本的な考え方

厚生労働大臣発言要旨（平成23年10月28日閣僚懇談会）

より一層、食品の安全と安心を確保するため、**来年4月を目途に、一定の経過措置を設けた上で、許容できる線量を年間1ミリシーベルトに引き下げることを基本として、薬事・食品衛生審議会において規制値設定のための検討を進めていく。**

暫定規制値は、
24年4月を目途に
5分の1程度に
引き下げの方向

1 農産物の検査結果の概要（7月1日～9月30日）

（単位：Bq/kg）

	検査数	放射性セシウム暫定規制値(500Bq/kg)以下				500超
		不検出	100以下	100超～ 300以下	300超～ 500以下	
麦(10月14日まで)	509	253	236	15	4	1
野菜	2,465	2,392	68	5	0	0
果実	1,291	730	487	52	14	8
豆類	36	33	3	0	0	0
イモ・茶等	528	316	77	73	32	30
きのこ等	518	307	138	39	10	24
計	5,347	4,031	1,009	184	60	63
	100%	75%	19%	3%	1%	1%

500Bq/kg超の品目

小麦、ビワ、イチジク、ユズ、クリ、荒茶、生茶葉、製茶、なたね、原木シイタケ、チチタケ、原木ナメコ、アマタケ、ハツタケ、マツタケ

資料3のポイント

- 全国の検査結果は、
不検出、100ベ
クレル以下が大半
- 規制値超
⇒出荷制限

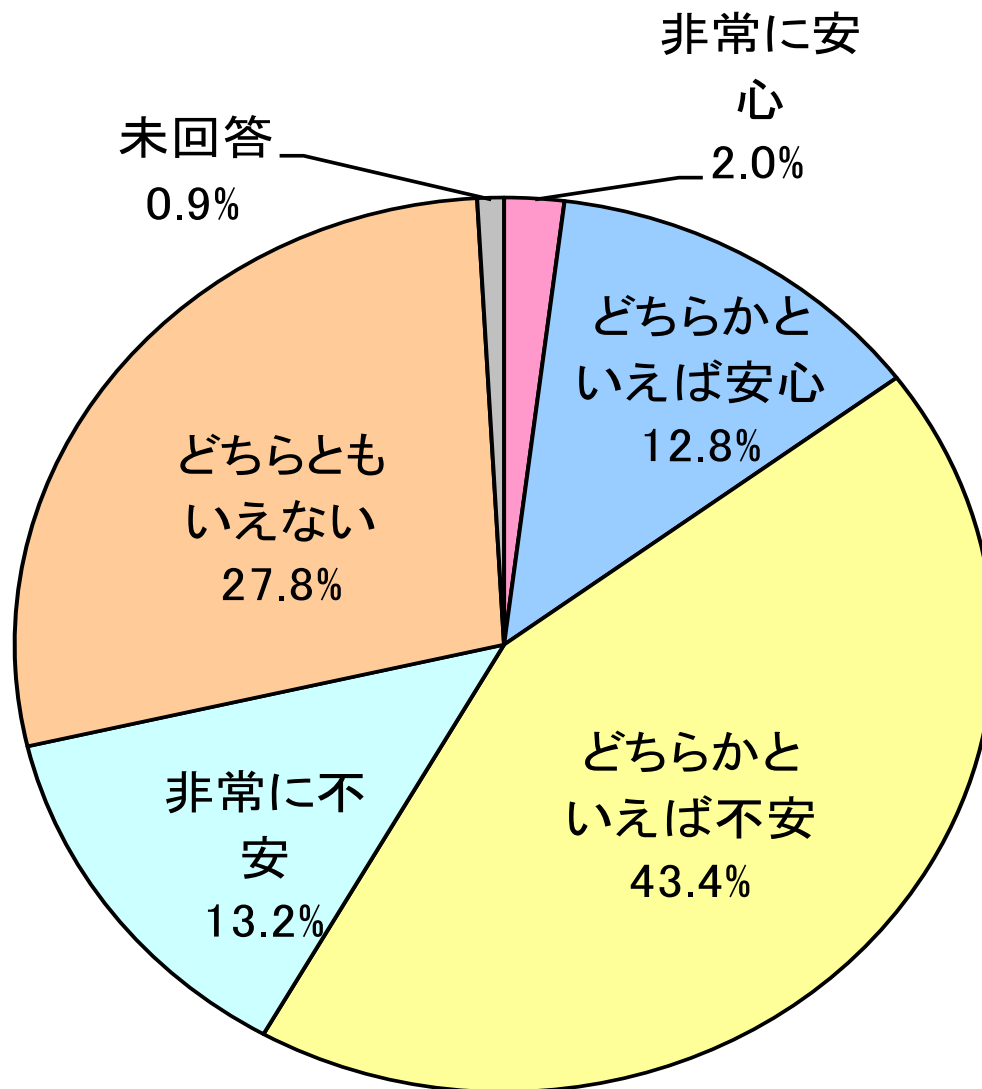
○これまでの食品の検査結果（岐阜県）

区分	品目	採取日	採取場所	検査結果		
				ヨウ素131	セシウム134	セシウム137
野菜	ほうれんそう	H23. 4. 20	岐阜市	<2. 11	<1. 23	<1. 44
米	玄米(あきたこまち)	H23. 8. 9	岐阜市	<1. 46	<0. 98	<0. 93
	玄米(たかやまもち)	H23. 8. 29	飛騨市	<1. 89	<0. 82	<0. 87
	玄米(コシヒカリ)	H23. 8. 30	中津川市	<1. 88	<0. 79	<0. 90
茶	荒茶	H23. 5. 16	池田町	<48	4. 8	4. 7
	荒茶	H23. 5. 25	白川町	<22	2. 0	2. 2
牛肉	県内農家出荷分	検査日 7/21 ~8/17	(35頭)	<0. 75 ~<11. 95	<0. 66 ~90. 6	<0. 71 ~110
	他県農家出荷 県内流通分	検査日 7/16 ~10/24	(11頭)	<1. 21 ~<17. 34	<0. 65 ~292	<0. 85 ~350
獣肉	イノシシ(雌)	H23. 10. 16	中津川市	<2. 8	0. 85	2. 5
	ニホンジカ(雄)	H23. 10. 16	下呂市	<2. 9	<0. 85	6. 0
	イノシシ(雄)	H23. 10. 31	高山市	<1. 2	<0. 87	1. 1

- 県内産牛肉
⇒全頭検査実施中
- 11月下旬から
県内産農畜水産物
を検査

岐阜県では、
放射性物質検査の
依頼を受付中(有料)

あなたは、暫定規制値以下の食品の健康への影響について、どのように思っていますか。



暫定規制値以下の
食品の健康への影響
が不安

・・・57%

やっている工夫

- 産地を確認 89%
- よく洗う 63%
- 情報入手 35%

「食品中に含まれる放射性物質の食品健康影響評価」の概要

- ① 放射線による影響が見いだされているのは、通常の一般生活において受ける放射線量を除いた生涯における累積の実効線量として、おおよそ100mSv以上。
- ② 小児の期間については、感受性が成人より高い可能性（甲状腺がんや白血病）がある。
- ③ 追加の累積線量として100mSv未満の健康影響について言及することは現在得られている知見からは困難。

福島原発事故（2011.3）以前から、大気圏内核実験やチェルノブイリ原発事故の影響で、放射性セシウムは環境中に存在

＜岐阜県内のデータ＞

試料採取年度	食品名	放射能濃度 (セシウム137)
2009	ホウレンソウ	0.015Bq/kg
	緑茶	0.097Bq/kg
1990	緑茶	0.44 Bq/kg

文部科学省. “環境放射線データベース”.

<http://search.kankyo-hoshano.go.jp/servlet/search.top>, (参照 2011-10-25).

会場のみなさんに質問です

Q あなたならどちらを買いますか？

1 放射性物質に関する情報がない

東海地方の農産物 1kg 1100円

2 「放射性物質不検出」という表示の

ある東北地方の農産物 1kg 850円

(「大切に育てました」という農家の方
の写真入りコメントあり)

解説

- 測定器の検出限界値は？
- 健康への影響は？
- 子どもが食べるか？
- 産地は？
- 値段、買う量
- 写真の農家を信用できるか？
- その店を信用できるか？

科学的知識、経済的判断、社会への信頼

私たちは難問に直面しています。